

ハザードマップを確認しよう

平常時にハザードマップを確認しながら、風水害時の避難行動判定フローで、避難行動を確認してみましょう。
(ここでは、自宅からの避難を想定したフロー図を示しています。)

国土交通省
ハザードマップ
ポータルサイト



身の周りの災害リスクを調べることができます。

家の周りや避難経路についても確認して避難が可能か確認しておきましょう。

地図によって異なるので、凡例(表記例)を必ず確認しよう

洪水災害

早期の立退き避難が必要な区域

- 早期の立退き避難が必要な区域
- 河岸侵食によって家屋倒壊等の危険がある区域
- 氾濫流によって家屋倒壊等の危険がある区域

浸水深の目安

- 10.0m以上の区域
- 5.0~10.0m未満の区域
- 3.0~5.0m未満の区域
- 0.5~3.0m未満の区域
- 0.5m未満の区域

- 水位観測所
- 避難方向
- アンダーパス・地下道

土砂災害

土砂災害警戒区域等

- 特別警戒区域
- 警戒区域
- 急傾斜

土砂災害危険箇所

- 土石流
- 急傾斜
- 地すべり

指定緊急避難場所
指定避難所

- 指定緊急避難所
- 指定避難所

(岩手県盛岡市の凡例)

START

ハザードマップで自分の家のある場所を確認、印をつける

家のある場所に色(洪水の浸水深や、土砂災害等)が塗られている

屋内安全確保
在宅避難でも防災グッズを準備しましょう
※停電時に避難が必要な人は、避難先を決めておきましょう

色はないが、
① 周り比べて低い土地
② 自宅のそばに崖がある
③ 水路のそばなど不安がある


災害の危険がある場所ですので、原則*として安全な場所への避難(立ち退き)が必要です
※今回は大丈夫と過信をせずに、危険地域では早めに避難するようにしましょう
★屋内安全確保の3つの条件を確認しましょう

避難場所の例

安全な場所に逃げよう。
避難とは難を避けること! 避難所以外にも逃げ先がないか考えよう。

行政が指定した避難場所への立退き避難

基本的に、非常用持ち出し品を持っていきましょう。




安全な親戚・知人宅への立退き避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。



安全なホテル・旅館への立退き避難

通常の宿泊料が必要です。事前に予約・確認しましょう。




屋内安全確保

ハザードマップで下の「3つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫かを判断することが必要です。

★必ず確認! 3つの条件

- ① 家屋倒壊等氾濫想定区域外
- ② 浸水深より居室が高い
- ③ 水が引くまでの備えがある

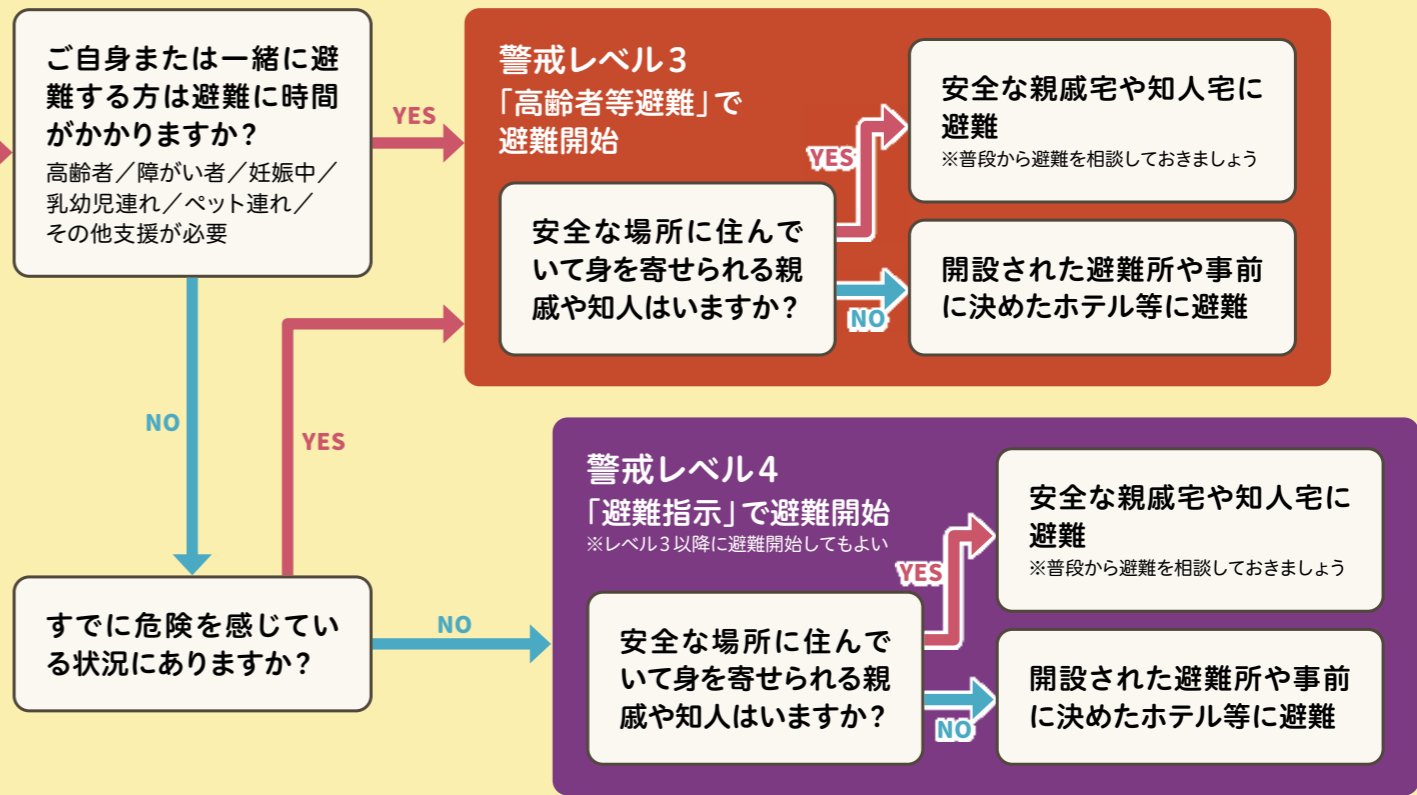
土砂災害の危険がある区域は、立ち退き避難が原則です



ここなら安全!

想定最大浸水深

YES → NO →



災害発生時の行動を考えておこう

災害発生前から行動計画を立てやすい風水害に備える「マイタイムライン」を作成してみましょう。
ハザードマップを見て避難ルートや避難場所を検討すること、備蓄品を備えたりすることは、地震や津波の場合の避難行動にも役立ちます。
ぜひ、自分の避難行動を書きおこしてみましょう。

1 自分の住んでいる地域を知る

まずは自宅と周辺地域のハザードマップを確認し、ハザードや指定避難所の位置など確認しましょう。
ハザードマップでは色がついていない地域でも、水路など普段の雨で浸水しやすい箇所なども注意が必要です。

2 自分と家族の現状をまとめる

自分や家族の連絡先や住居状況、避難場所など、家族や支援者と相談、情報共有できるように整理しましょう。

3 避難行動を考える

実際に避難できる場所をいくつか検討し、避難ルートや避難行動計画を整理しましょう。
自分でできることや支援者の手伝いも時系列に書き込んでいきましょう。

4 家族や支援者と相談・情報共有しよう

逃げるタイミングや避難先をお互いに確認しておくことで、家族や支援者の逃げ遅れも防ぎます。

5 実際に歩いてみよう(避難の練習)

準備をした荷物を持ち、実際の避難を想定して避難道を歩くことで、坂道や夜間、雨の中での避難行動を見直してみましょう。

6 定期的に確認しよう

一度作成したシートでも定期的に見直しましょう。

